

一橋大学

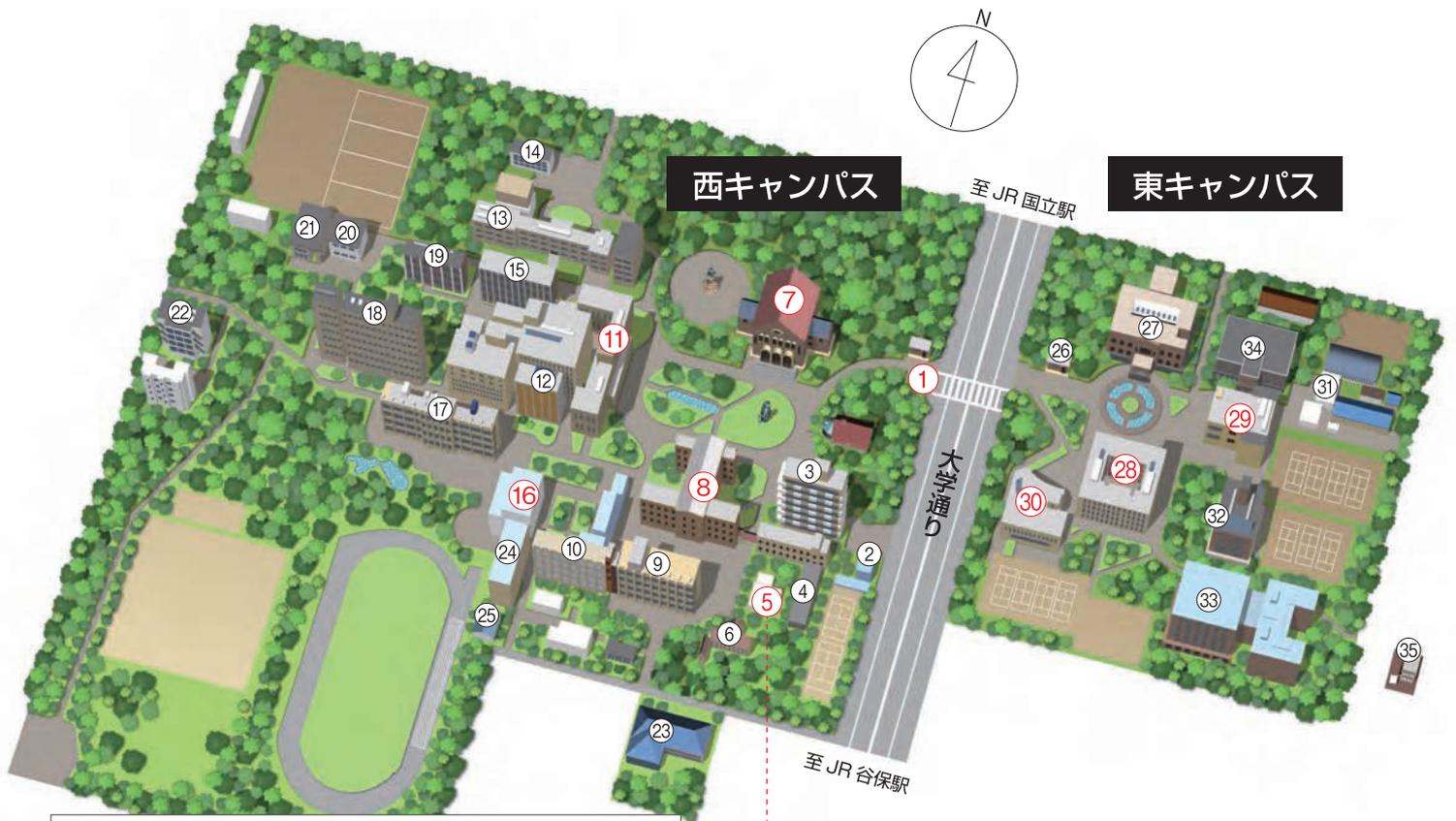
2011 オープンキャンパス

■ 商学部 ■ 経済学部 ■ 法学部 ■ 社会学部

2011.10.9. [日]

～未来のグローバルリーダー達へ～

一橋大学キャンパスマップ



- | | |
|------------------|---------------------|
| ① 西守衛所 | ⑱ イノベーション研究センター |
| ② 車庫 | ⑳ 情報基盤センター |
| ③ 法人本部棟 | ㉑ 情報教育棟 |
| ④ 別館 | ㉒ 国際交流会館 |
| ⑤ 保健センター | ㉓ 佐野書院 |
| ⑥ 職員集会所 | ㉔ 課外活動共用施設 |
| ⑦ 兼松講堂 | ㉕ 合宿所 |
| ⑧ 本館 | ㉖ 東守衛所 |
| ⑨ 第1講義棟 | ㉗ 東本館 |
| ⑩ 第2講義棟 | ㉘ 東1号館・大学教育研究開発センター |
| ⑪ 附属図書館 | ㉙ 東2号館 |
| ⑫ 社会科学古典資料センター | ㉚ 東プラザ |
| ⑬ 経済研究所 | ㉛ 体育館・武道場 |
| ⑭ 社会科学統計情報研究センター | ㉜ 国際研究館 |
| ⑮ 第1研究館 | ㉝ マーキュリータワー |
| ⑯ 西プラザ | ㉞ 第3研究館 |
| ⑰ 磯野研究館 | ㉟ 如水ゲストハウス |
| ⑲ 第2研究館 | |

保健センター

《体調が悪くなった》場合は

気軽に **一橋大学** の腕章を着けた係の者にお申し出ください。
 また、保健センターでは、応急的な看護をいたしますので、
 何かあった際には、ご遠慮なくお越しください。

●西キャンパス



●東キャンパス



保健センター

目次

一橋大学「2011 オープンキャンパス」タイムスケジュール	1
イベントスケジュール・プログラム	2-3
各イベント開催場所	4-6
西キャンパス 兼松講堂案内図	4
西キャンパス 本館案内図	4
西キャンパス 附属図書館案内図	5
東キャンパス 東1号館案内図	5
東キャンパス 東2号館案内図	6
西プラザ・東プラザ案内図	6
一橋大学オープンキャンパスにおける主な Q&A	7-17

一橋大学「2011 オープンキャンパス」タイムスケジュール

※ ○数字は表紙裏の「一橋大学キャンパスマップ」の数字に対応しています。

		8:30	9:00	9:30	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:00		
西キャンパス 開催場所	西正門 ①	第1部受付			第2部受付						第3部受付										
	兼松講堂 ⑦	9:00~9:30	10:00~11:20	11:20~12:20	12:50~14:10	14:10~15:10	15:40~17:00	17:00~													
	2階	第1部 大学紹介 ・学長挨拶 ・大学概要 [映像配信] 2階21・26番教室	第1部学部説明 【法学部】 (兼松講堂) 【商学部】 2階21番教室 [映]26番教室	個別質問 (兼松講堂) (23番教室)	第2部 大学紹介 ・学長挨拶 ・大学概要 [映像配信] 2階21・26番教室	第2部学部説明 【法学部】 (兼松講堂) 【商学部】 2階21番教室 [映]26番教室	個別質問 (兼松講堂) (23番教室)	第3部 大学紹介 ・学長挨拶 ・大学概要 [映像配信] 2階21・26番教室	第3部学部説明 【法学部】 (兼松講堂) 【商学部】 2階21番教室 [映]26番教室	個別質問 (兼松講堂) (23番教室)											
	3階	3階31・36番教室	【経済学部】 3階31番教室 [映]36番教室	(33番教室)	3階31・36番教室	【経済学部】 3階31番教室 [映]36番教室	(33番教室)	3階31・36番教室	【経済学部】 3階31番教室 [映]36番教室	(33番教室)											
	特別応接室 ⑧	学生生活相談コーナー (入試制度・カリキュラム・卒業後の進路・学生生活・奨学金等) 9:30~16:30 ※留学制度は本館2階25番教室																			
	附属図書館 ⑪	図書館見学 9:00~16:30 (自由見学・入館は16:00まで)																			
	西プラザ ⑬	<昼食等> 食堂 11:00~14:00 (営業時間) パンショップ 10:00~15:00																			
	1東号館 ⑳	本学学生による受験生相談会 10:30~16:30 1階1101番教室																			
	東2号館 ㉑	10:00~11:20	11:20~	12:50~14:10	14:10~	15:40~17:00	17:00~														
	東プラザ ㉓	<昼食等> 食堂 11:00~14:00 (営業時間) ショップ 10:00~17:00																			
その他	映像で知る一橋大学 西キャンパス：本館2階 24番・28番教室 ⑧ 9:00~16:30 東キャンパス：東1号館2階 1201番・1202番教室 ㉑																				
構内	本学学生によるキャンパスツアー 9:50~16:30 集合場所 兼松講堂東南側 (1回につき約30分)																				

イベントスケジュール・プログラム

※ ○数字は表紙裏の「一橋大学キャンパスマップ」の数字に対応しています。

大学紹介

場所：⑦ 西キャンパス兼松講堂

学長挨拶及び副学長による大学の概要説明です。既に申し込んだ時間にご参加ください。

(第1部) 9:00~9:30 (第2部) 11:50~12:20 (第3部) 14:40~15:10

※映像配信実施 - ⑧本館 2階 21・26 番教室 / 3階 31・36 番教室

※兼松講堂については高校生(受験生)の入場を優先します。

※お待ちになる場合は、西キャンパス：⑧本館2階 24・28, 3階 34・38 番教室

東キャンパス：⑳東1号館 2階 1201・1202 番教室 をご利用ください。

学部説明

各学部に分かれて、それぞれの学部の詳しい説明や模擬講義等が行われます。既に申し込んだ学部・時間にご参加ください。

(第1部) 10:00~11:20 (第2部) 12:50~14:10 (第3部) 15:40~17:00

学部	場所	内容
商学部	⑧西キャンパス 本館 2階 21 番教室 (映像：2階 26 番教室)	①学部長挨拶 ②学部概要説明 ③ミニ・レクチャー ④学部生によるパネル討論 ⑤質疑・応答
経済学部	⑧西キャンパス 本館 3階 31 番教室 (映像：3階 36 番教室)	①学部長挨拶 ②学生によるパネル討論 ③個別質問
法学部	⑦西キャンパス 兼松講堂	①学部長挨拶 ②カリキュラム概要説明 ③模擬講義 ④ゼミナール紹介
社会学部	⑳東キャンパス 東2号館 2階 2201 番教室 (映像：3階 2301 番教室)	①学部長挨拶 ②学部概要説明 ③模擬講義Ⅰ ④模擬講義Ⅱ ⑤Q&A

学部個別質問

それぞれの学部の先生方が、あなたの質問に答えてくれます。

授業の内容や学部の特色など、疑問に思うことや不安を思い切って先生方に相談してみましょう。

(第1部) 11:20~ (第2部) 14:10~ (第3部) 17:00~

学部	場所	備考
商学部	⑧西キャンパス 本館 2階 23 番教室	
経済学部	⑧西キャンパス 本館 3階 33 番教室	
法学部	⑦西キャンパス 兼松講堂	
社会学部	⑳東キャンパス 東2号館 2階 2201 番教室	(10:00~17:00)・東キャンパス 東2号館 2階 2202 番教室で社会学部紹介ビデオを上映 ・東キャンパス 東2号館 2階 2203 番教室で社会学部学生の相談会

学生生活相談コーナー（9：30～16：30） 場所：⑧西キャンパス 本館1階 特別応接室

入学試験や大学生活に関することを担当の大学職員に対し質問することができます。入学試験の受験科目、入学後のこと（奨学金・学生寮・授業カリキュラム・就職 等）など相談してみましょう。

なお、留学制度の相談については、本館2階25番教室で実施しています。

図書館見学（9：00～16：30） ※入館は16：00まで 場所：⑪附属図書館

附属図書館は、随時見学することができます。自由に見学できる他、要所ごとに配置された職員に質問することができます。順路・みどころは別冊「一橋大学附属図書館によろこ」を参照してください。（当日、附属図書館で配付します。）

本学学生によるキャンパスツアー（9：50～16：30） 集合場所：⑦兼松講堂東南側

在学生がキャンパス内を案内します。希望者は西キャンパス兼松講堂東南側に集合してください。

※1回につき約30分

本学学生による受験相談会（10：30～16：30） 場所：⑳東キャンパス 東1号館1階 1101番教室

在学生に受験勉強やその他について相談できます。

映像で知る一橋大学（9：00～16：30） 場所：⑧西キャンパス 本館2階24・28番教室
⑳東キャンパス 東1号館2階1201・1202番教室

大学概要の紹介及びサークル紹介のDVD(約30分)をリピート上映しています。

また、休憩室(飲食可)としてもご利用いただけます。

休憩室

(飲食可)

西キャンパス：⑧本館2階24・28、3階34・38番教室

東キャンパス：⑳東1号館2階1201・1202番教室 をご利用ください。

兼松講堂 - ⑦



大学紹介 : 9:00~9:30 / 11:50~12:20 / 14:40~15:10

法学部説明 : 10:00~11:20 / 12:50~14:10 / 15:40~17:00

法学部個別質問 : 11:20~ / 14:10~ / 17:00~

本館 - ⑧



【1階】

学生生活相談コーナー : 9:30~16:30 ▶ 特別応接室

【2階】

大学紹介映像配信 : 9:00~9:30 / 11:50~12:20 / 14:40~15:10 ▶ 21・26番教室

商学部説明 : 10:00~11:20 / 12:50~14:10 / 15:40~17:00 ▶ 21番教室

商学部説明映像配信 : 10:00~11:20 / 12:50~14:10 / 15:40~17:00 ▶ 26番教室

商学部個別質問 : 11:20~ / 14:10~ / 17:00~ ▶ 23番教室

留学制度相談会 : 9:30~16:30 ▶ 25番教室

映像で知る一橋大学 : 9:00~16:30 ▶ 24・28番教室

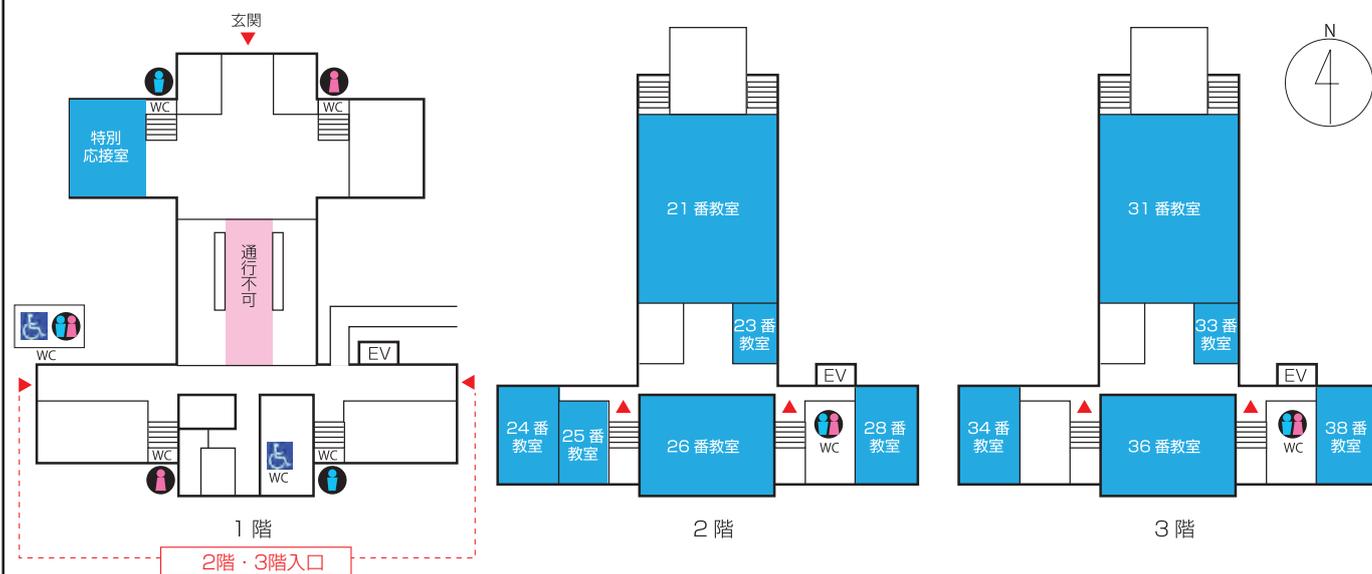
【3階】

大学紹介映像配信 : 9:00~9:30 / 11:50~12:20 / 14:40~15:10 ▶ 31・36番教室

経済学部説明 : 10:00~11:20 / 12:50~14:10 / 15:40~17:00 ▶ 31番教室

経済学部説明映像配信 : 10:00~11:20 / 12:50~14:10 / 15:40~17:00 ▶ 36番教室

経済学部個別質問 : 11:20~ / 14:10~ / 17:00~ ▶ 33番教室



※本館の1階と2階・3階の入口は異なりますのでご注意ください。

附属図書館 - ⑪



図書館見学：9:00～16:30

※詳しくは「一橋大学附属図書館によるこそ」を参照してください。
(当日、附属図書館で配付します。)



東1号館 - ⑳



【1階】

本学学生による受験生相談会：10:30～16:30

▶ 1101番教室

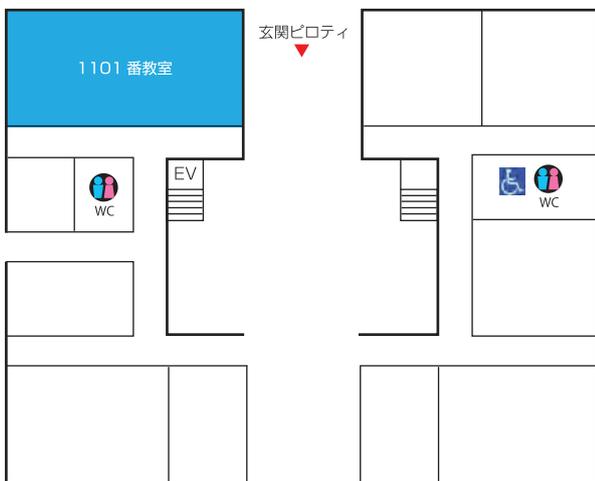
【2階】

映像で知る一橋大学：9:00～16:30

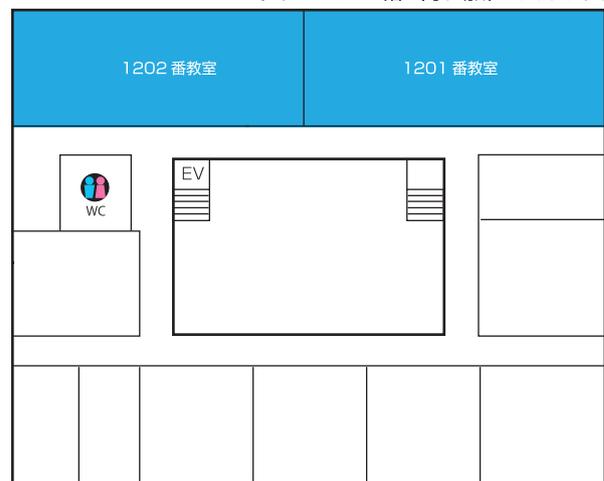
▶ 1201・1202番教室



※トイレは3・4階の同じ場所にもあります。



1階



2階

東2号館 - ②9



【2階】

社会学部説明：10:00～11:20／12:50～14:10／15:40～17:00

▶ 2201番教室

社会学部個別質問：11:20～／14:10～／17:00～

▶ 2201番教室

社会学部紹介ビデオ上映：10:00～17:00

▶ 2202番教室

社会学部学生による相談会：10:00～17:00

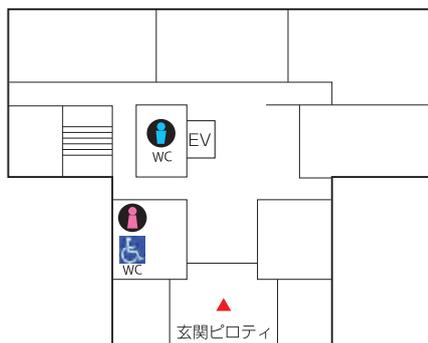
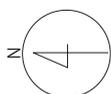
▶ 2203番教室

【3階】

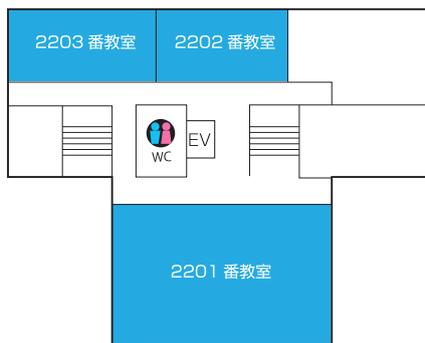
社会学部説明映像配信：

10:00～11:20／12:50～14:10／15:40～17:00

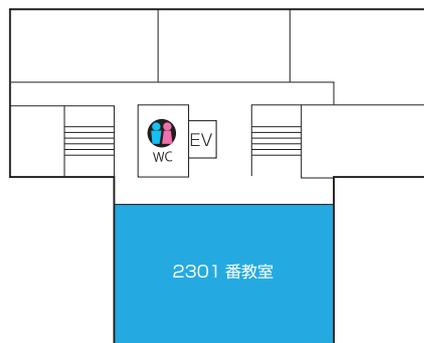
▶ 2301番教室



1階



2階



3階

西プラザ - ①6 / 東プラザ - ③0



休憩場所として終日開放しています。(営業時間外利用可)

①6西プラザ (西キャンパス)

(営業時間) 食 堂 11:00～14:00

パンショップ 10:00～15:00

③0東プラザ (東キャンパス)

(営業時間) 食 堂 11:00～14:00

ショップ 10:00～17:00



商学部

Q1：商学部では、学生は4年間通してどのような履修パターンが多いですか。

A1：履修モデルパターンについては、商学部ウェブサイト (<http://www.cm.hit-u.ac.jp/kyouiku/shougakubu/pattern.html>) に記載されています。これは専門領域ごとに、このような科目を順番に取ればよいのだということを示したアドバイスです。

履修科目は、学生一人一人の興味関心によって変わってきます。しかしながら一般に1年生は、語学や全学共通教育科目、それに商学部が提供する学部教育科目の中でも、より基礎的な科目（導入ゼミ、経営学概論、会計学概論、金融概論）を受講することになるでしょう。3、4年生はゼミナールが大きな位置づけになり、そのゼミナールでテーマとしている内容に関連する学部教育科目を選択する人が多いようです。2年生は、ちょうどその中間で、基礎的な科目と専門的な科目を混ぜて履修しているようです。加えて、商学部2年生は全員が「前期ゼミ」に所属し、専門的内容を少人数で学ぶ機会が用意されています。

Q2：どのようなゼミがありますか。ゼミの特色や数はどうですか。

A2：商学部のウェブサイトの「商学部－ゼミ紹介」を参考にしてみてください。

(<http://www.cm.hit-u.ac.jp/kyouiku/shougakubu/seminar.html>) 今年度開講されているすべてのゼミについて、担当教員の専門分野、ゼミの目的及び使用するテキスト、教員からのメッセージなどが詳しく説明されています。

Q3：商学部と経済学部の違いについて具体的に教えてください。

A3：共に「社会を理解する」ことを目標として勉強・研究を行う学部ですから、さほど大きな相違があるとはいえないというのが正直な答えですが、いくつか相違点もあげておきます。

第1は、アプローチの違いです。商学部においては、主として「企業」にかかわる諸課題を考察することを通じて「社会」を理解しようとする傾向があるのに対して、経済学部においては、企業のみならず「様々な主体・制度」を考察することを通じた社会理解が行われる場合が多いという点です。

第2は、分析の際に用いられる基礎的原理の違いです。経済学部においては、程度の差はあれ、「経済学（マクロ経済学・ミクロ経済学）」の知識を基礎として社会を理解しようとする傾向がありますが、商学部においては、経済学のみならず、経営学・社会学・心理学といった幅広い知識を基礎として社会を理解しようとしています。

第3は、実学的志向の相違です。一概にはいえませんが、経済学部に比べて商学部の方が、自らの知識・理解を実践し、実用化しようとする傾向が強いかもかもしれません。

Q4：商学部は、税理士、公認会計士の資格を取るのに有利ですか。

A4：商学部には、これらの資格に関連する知識を提供する講義科目があるのでプラスになることは間違いありませんが、これらの講義は資格試験に合格するために用意されたものではありません。

Q5：商学部に入學しても数学は学べますか。

A5：商学部においても数学を勉強することは可能です。一橋大学においては、学部の枠に縛られることなく様々な領域の勉強をしてほしいとの考えから、学部教育科目以外の科目を積極的に履修することをすすめています。思う存分数学を勉強してください。

さらにいうと、商学部のどの分野を専攻するにしても、数学・統計の知識は必須です。積極的に数学を勉強してもらいたいと考えています。

経済学部

Q1：経済学部と商学部の違いがよくわからず、志望学部を決めかねています。

A1：いわゆるビジネスの勉強をするなら商学部、経済の仕組みを勉強するなら経済学部です。商学部にも経済学部にも様々な分野があるので一概にはいいにくいのですが、あえていうなら商学の方がより実学的で、経済学の方がやや抽象的だといえます。

経済学部ウェブサイトでは、「経済学への招待」と題して、経済学とはどのような学問か、また経済学をどのように学んだらよいかについて、何人かの教員からの寄稿文を掲載しています。参考にしてください。

Q2：経済学部の魅力的な先生を紹介してください。

A2：個人名をあげるのは難しいです。テレビに出るといった派手な活躍の仕方をする人は少ないのですが、それぞれの研究分野における（超）一流の先生が集まっています。

経済学部のウェブサイトから個人のウェブサイトに入れるようにしている先生も多いので参考にしてください。

Q3：一橋大学経済学部に独特な研究分野として、どのようなものがありますか。

A3：本学部は、経済理論とその応用分野から歴史・地域研究に至るまで、多様な分野をカバーしています。経済学部のウェブサイトから、いろいろな教員のページを見てください。あなたの興味を引きそうな研究分野がきっと見つけれられるでしょう。



Q4：経済学を専門的に学ぶために、今からやっておいた方がよいことはありますか。

A4：どのような学問分野についてもいえることだと思いますが、基礎的な学習スキル（たとえば語学や数学など）を着実に身に付け、現実の社会に対する広い関心を持ち、さらに自分で問題を発見する努力を心がけることが重要です。

Q5：経済学部で取得できる資格について教えてください。

A5：経済学部で取得できる資格は、中学校教諭1種免許（社会、数学）、高等学校教諭1種免許（地理歴史、公民、数学）の教員免許です。

Q6：経済学部にはどれくらいの数学の能力が必要ですか。また受験では数Ⅱ・Bまでが出題範囲ですが、数Ⅲ・Cまで勉強しておいた方がよいのでしょうか。

A6：経済学にもいろいろな分野があり、その中には数学の能力がほとんど必要でないものもありますが、経済学全般を理解しようとする程度は数学能力は必要です。数学的な思考は、経済の仕組みを理解するのに大いに役立ちます。ただし、試験問題は出題範囲から出されますし、数学の知識自体はそれほど多くのものを必要としません。より高いレベルの勉強をすることは頭の訓練、そして入学後の学習に役立ちますが、今は出題範囲内で難しい問題に取り組んでいくべきでしょう。入学後に数学の講義を履修して勉強すれば大丈夫です。

法学部

Q1：一橋大学法学部で「これだけは、一橋大学だけだ」といえるものはありますか。

A1：一橋大学の法学部は、学界の第一線で活躍する一流の研究者を多数擁すると同時に、創立以来半世紀にわたって、様々な分野で有為の人材を多数輩出してきました。研究と教育の両面にわたって、自信があります。本学の法学部で学ぶ学生には、まさに無限の可能性が広がっています。

教育面でまさに「一橋大学だけ」と誇ることができるのは、少人数のゼミ（演習）です。平均7人程度の学生が先生を囲み、専門分野について徹底的に学習・討論を行います。すべての学生がゼミに参加し、卒業論文（論文とはいえ、本になるくらいの長さの「大作」を仕上げる学生も少なくありません。）を書きます。

Q2：法学部の3年次のコース分けは、希望のみではなくて成績も考慮されるのですか。またカリキュラム等は自分で決めることができるのですか。

A2：成績は関係ありません。第3学年進学時に本人の希望によって「国際関係コース」と「法学コース」を自由選択できます。国際関係コースの学生も法学科目をたくさん履修できますし、逆も同様です。

この「コース」制は、他大学の法学部によくある学科（法律学科と政治学科など）制よりも、はるかに緩やかなものだと考えてください。

Q3：法学部で学びたいと思っていますが、法を学ぶにはどのような能力・考え方などが必要となりますか。

A3：法学部で法を学ぶためには、論理性、物事に対する多角的な見方、文章読解力、作文力、正義への関心などが大切だと思われる。

Q4：法学部ではどのように法律とかがわっていくのかを教えてください。

A4：法学部は、学問としての法律学を学ぶ場です。法制度の仕組みを理解することももちろん重要ですが、それだけでは十分ではありません。法の基礎となっている理念を学ぶこと、社会的問題を法律を用いて解決する方法を模索すること、法制度をよりよくするためにはどのようにすればよいかを考察すること等も、法律学とのかかわり方です。

Q5：法学部では日本以外の法についても学べるということですが、どれくらい専門的な内容ですか。

A5：英米、ヨーロッパ、中国などの法について講義があります。基礎から専門まで様々です。

Q6：法学部のカリキュラムには実習（裁判を想定して実際に学生でやってみる）などがありますか。

A6：カリキュラム上は特にそうしたものはありませんが、ゼミナールなどでは模擬裁判を行うこともあります。

Q7：法学部の経済学副専攻プログラムの詳細について教えてください。また「副専攻プログラム」を実際に行っている人はどのくらいいるのでしょうか。

A7：「副専攻プログラム」は、法学部の学生が経済学部の科目をより効率的・体系的に学ぶことができるよう作られており、経済学部の定める科目のなかから卒業までに「合計20単位」を履修することになっています。プログラムを修了した人には証明書が発行されます。

平成22（2010）年度の場合、2年生7人、3年生32人、4年生37人がこのプログラムを活用しています。なお、このプログラムを活用していない学生でも、自主的に経済学部を含む他学部の科目を履修することができます。

Q8：法曹の講師は何人くらいいますか。

A8：学部では非常勤講師として弁護士が授業を持つこともありますし、専任教員の中にも法曹資格を有している者がおり、現に弁護士を経験した者がいます。



- Q9：国際関係についていろいろ学びたいのですが、法学部と社会学部での学べることの違いを教えてください。**
- A9：**ひとくちに国際関係といっても、テーマは様々(安全保障、国際経済、国際組織、地球環境、国際人権、文化交流などなど)です。本学ウェブサイトで公開している講義要綱を見たり、オープンキャンパスでの学部説明会を利用して、関心のあるテーマの講義がどちらの学部にあるか確認したりして、検討するのがよいでしょう。
- 法学部では、国際法、国際組織法、国際政治史、政治外交史、国際紛争論、国際組織論、国際政治経済論、国際関係理論、グローバル・ネットワーク論などを開講しています。また本学では、他学部の講義を履修することも比較的自由にできますので、広く学ぶことが可能です。
- Q10：法学系の職業を目指しています。大学生活の中で様々な先輩に仕事の実態を聞きたいのですが、そういった縦のつながりはどのようになっているのでしょうか。**
- A10：**入学するとすぐに本学の同窓会である如水会主催の歓迎会があります。その後も、如水会は留学や就職を始めとする様々な場面で、本学の学生の生活をサポートしてくれます。
- また、例年秋に開催される法学部主催の講演会では、教授と学生が机を並べて、お招きした学界・法曹界の重鎮や気鋭の若手の話を聞くことが慣例になっています。
- Q11：将来的には法曹(裁判官、検察官又は弁護士)を希望しています。高校生活ではどのようなことに気を付けていけばよいでしょうか。具体的なアドバイスがあれば教えてください。**
- A11：**高校における勉強は基本的な「物の考え方」や価値観を養うものであり、人間としての基礎を形作るものです。したがって、高校では高校の勉強をきちんとするべきであり、「法曹になるための特別な高校教育」などはありません。しかし、「現代社会」や「倫理・政経」などの科目を通じて社会に対する関心を持つようにすれば、将来大きく役立つと思います。
- Q12：国際開発援助などの国際機関で働きたいと思っていますので、国際法を始め、外国語などに興味があります。具体的にはどのような内容が学べるのか是非教えてください。**
- A12：**国際機関で働く国際公務員や、NGOで活躍することを希望する学生が、本学でも近年増えています。法学部では「国際法」、「国際機構論」を始めとする国際関係の様々な科目を提供しています。
- Q13：私は将来外交官になりたいのですが、この大学では、そのためにどのような教養を身に付けることができますか。外交官向けの特別な講座は何かありますか。**
- A13：**試験対策という狭い意味での特別な講座は設けていませんが、本学はこれまでに数多くの外交官を輩出してきました。それは本学のカリキュラムが、国際舞台で活躍するために必要な教養を身に付ける上で、きわめて効果的であるからだと思われています。
- また、国際法、国際政治史(外交史)、国際関係論(国際政治学)、様々な外国語、世界各国の法律・政治・経済・文化などを扱う幅広い講義の中から、自由に選択することができます。
- そのほか、例えば開発経済学を経済学部から履修したり、アジアやアフリカの地域研究を社会学部から履修したりすることができます。外国語は、すべての学部に通じる科目として、様々な言語が用意されています。
- Q14：法曹界に多くの優秀な存在を送り込むために、一橋大学が率先して進めている活動には、どのようなものがあるのですか。**
- A14：**法科大学院を設立したり、法曹界で活躍したりしているOB・OGで構成されている法曹如水会と密接に連携して教育を行っています。
- Q15：法科大学院開設に当たって、就職と大学院進学希望者それぞれで、カリキュラムにどのような差があるのか教えてください。**
- A15：**就職希望者と大学院進学希望者とで、履修方法に違いを持たせている訳ではありません。学生自身が、それぞれの目的に応じて履修科目を選択します。もちろん、ゼミ指導教員などに科目の選び方を相談することができます。
- Q16：司法試験や公務員試験への対策などは、具体的にどのようなことをしていますか。**
- A16：**司法試験や公務員試験を始め、各種の試験対策のために設けられた特別な科目はありません。法学部の通常の講義を聴くことが、何よりも試験の勉強になると思われます。

法科大学院

- Q1：法科大学院と通常の学部とで、やることはどのように違うのですか。**
- A1：**法学部では、社会人として身に付けるべき法律的素養や法律の基本的な理念などに重点をおいて学びます。他方、法科大学院では、学部で習得した法的知識を実際に応用して社会に生じうる法的問題について考察し、解決する実践的能力を習得したり、より先端的な問題について学んだりすることになります。両者は教育の目的が異なっているものであり、単に法科大学院での学習内容を簡単にしたものを法学部で学んでいる訳ではないことに注意してください。
- Q2：法科大学院では、どのような法曹の育成に、重点をおいていますか。**
- A2：**①ビジネス法務に精通した法曹、②国際的な視野を持った法曹、③人権感覚に富んだ法曹の育成を目的にしています。



Q3：法科大学院に入学するには、学部でどのような勉強をすればよいのですか。

A3：学部で習う基本的な知識をしっかりと修得し、自分の頭で考える訓練をしてください。それ以上の細かい「受験技術」は不要です。

Q4：一橋大学法学部から一橋大学法科大学院へ進学する際に特別な入試方法がありますか。

A4：同じ大学の法科大学院へ進学する際にも、特別な入試方法がある訳ではありません。すべての受験生と同じです。

Q5：法科大学院の入学試験では、何人くらいが外部からの合格者になりますか。

A5：平成23(2011)年度入学試験では、既修者64人のうち40人(62.5%)、未修者28人のうち23人(82.1%)が、他大学出身者でした。

Q6：法科大学院の、司法試験の合格者数・合格率はどれくらいですか。

A6：過去5カ年の合格者の人数は次のとおりです。

	旧司法試験の合格者数	新司法試験の合格者数
平成23(2011)年度		82人
平成22(2010)年度	1人	69人
平成21(2009)年度	3人	83人
平成20(2008)年度	6人	78人
平成19(2007)年度	14人	61人

今年度の第5回新司法試験における本学法科大学院修了者の合格率は57.7%で、全国の法科大学院の中でトップの合格率となりました。

Q7：法学部以外からでも法科大学院へ進学可能ですか。

A7：法科大学院へは、法学部出身者(いわゆる「既修者」)の他に法学部以外の出身者(いわゆる「未修者」)も進学し、既修者は2年間、未修者は3年間かけて修了することになります。

もっとも既修者と未修者との区別は自己申告によるので、法学部出身の未修者や法学部以外の出身の既修者もあり得ます。

社会学部

Q1：社会学部にはどのような特色がありますか。

A1：社会学部は、社会科学の諸部門の総合という理念のもと、様々な理論に学び、経験的・実証的な研究の実践を通して、人間社会を総合的に、分析的・批判的に、構想力をもって読み解いていくことを目指す学部です。経営学、経済学、法律学など、特定の学問分野に限定することなく、社会学、言語学、哲学・思想、心理学、人類学、地理学、教育学、政治学、社会政策、歴史学など、様々な学問分野・研究分野を行き来し総合しながら「社会」を探究していく、そうした力を社会学部は育てます。

社会学部には、一方で、哲学と歴史を重視してこれらに学んできた伝統があります。また他方で、その時々々の社会と人間の問題に取り組み、分析・提言を繰り返してきた蓄積があります。このような伝統と蓄積を踏まえた、多彩なテーマについての、多彩な思考法・接近法による授業科目が、社会学部には多数用意されています。そうした授業科目を担う教員スタッフは、それぞれに各分野の先端的な研究に携わる研究者です。世界のいろいろな地域について、その地域の言語をよく知り、実体験や現地調査を通してその地域の諸問題に取り組むスタッフが充実しているのも、社会学部の特徴のひとつです。そして、こうした教員たちとともに、講義やゼミナールを通じて、各々の関心・問題意識を携えながら学び、研究するたくさんの学生たちが、社会学部を作り上げています。

社会学部のカリキュラムと授業内容、教員スタッフ、ゼミナール、学生の卒業論文テーマなどについての詳細は、社会学部のWebサイトをご覧ください(<http://www.soc.hit-u.ac.jp>)。

本日の学部説明(東キャンパス 東2号館2階 2201番教室)では、入学後のカリキュラムの概要、卒業論文のテーマ、就職状況なども紹介します。社会学部で、どのような勉強ができるのかを知るのに役立ててください。もっと知りたいという人は、学部説明の後、同じ教室で直接教員に質問することができるコーナーを設けます。こちらも、ぜひ活用してください。

Q2：カリキュラムの内容はどのようになっていますか。また、どのような科目を履修できますか。

A2：社会学部は学科には分かれていませんが(全体がひとつの社会学部社会学科です。)、講義科目だけで100以上もの多様な授業が行われています。これらは履修する学年ごとに、導入科目(1・2年次)、基礎科目(2年次以降)、発展科目(3年次以降)に区分されます。たとえば、導入科目の「社会研究の世界」(1年次必修)では、毎週異なる教員が登場し、社会学部にはどのような研究分野があるのか、研究領域やテーマを紹介します。また、「社会研究入門ゼミ」では、1年次生の冬学期から社会学部の専門ゼミナールの一端を体験することができます。このような導入科目は、より高度な研究をするために必要な勉強方法や研究テーマの選び方などを学ぶ大切な基礎を育むことでしょう。さらに、基礎科目と発展科目は、内容に応じて以下のよう6つの研究分野に分類されています。

- ①「社会動態研究」社会学理論と社会学的調査の理論と実践を研究し、さらに国際社会学、言語社会学の研究をもカバーする
- ②「社会文化研究」哲学、倫理学、社会思想史、言語文化、芸術など社会科学の源流をなす古典文献を読みつつ、そのアクチュアリティを現代につなげる
- ③「人間行動研究」社会心理学、社会人類学、社会地理学など、様々な空間における人々の実践の具体的姿を探る



- ④「人間・社会形成研究」教育、政治、スポーツなど、人間及び社会を積極的に形成する行為としての自由な「活動」に焦点をあてて社会を研究する
- ⑤「総合政策研究」人口問題、高齢化社会論、社会保障論、国際労働論など、喫緊の具体的課題に対する政策上の議論を批判的に研究する
- ⑥「歴史社会研究」古今の歴史的史料を解説する技術を学びつつ、日本、アジア、ヨーロッパなどに分かれてその社会史・文化史を研究する

学生たちは、これらすべての研究分野の開設科目から、それぞれの関心・問題意識に応じて自由に科目履修を行います。修学のためのガイドラインに従いながら、学生たちがそれぞれに、自分用のカリキュラム（「マイ・カリキュラム」）を設計していくことになります。

このときに大事なのがゼミナールです。ゼミナールは社会学部のほぼすべての教員が少人数の学生とともに行う授業科目で、毎年60近く開講されています。学生は3年次以降、必ずひとつのゼミナールを履修し、これを拠点としてそれぞれの学習・研究を重ねていきます。

もっと詳しく知りたい方は、社会学部 WEB サイトの『社会学部履修ガイド』をご覧ください。

(http://www.soc.hit-u.ac.jp/teaching/fss/fss_guide2011.pdf)

Q 3：環境政策系に関心があります。一橋大学では他学部の講義も割合と自由に履修できると聞いたのですが、社会学部に入学しても、環境経済学・資源経済学などの経済学部の講義も取ることができるのでしょうか。

A 3：一橋大学は学部間の垣根が比較的 low、授業ごとに設定されている要件（学年、関連授業の履修など）を満たせば、また学ぶ側でエネルギーを持続できれば、他学部の授業を受講することは容易ですし、単位も認定されます。そうやって取得した単位は最大で24単位まで、社会学部を卒業する要件である144単位の中に含めることができます。

Q 4：将来は報道関係の仕事に就きたいと思いますが、卒業生はどのような報道関係の仕事に就いていますか。

A 4：毎年社会学部を卒業してすぐに就職する人のうちの5～6人に1人はマスコミ関係の仕事に就いていますので、新聞社やテレビ局、通信社、出版社などのほとんどすべての報道関係の職場で一橋大学社会学部の卒業生が働いているといえます。

Q 5：社会学部では、卒業生がマスコミ関連の会社に就職できるようにするために、どのような対策を行っているのですか。

A 5：社会学部には、マスコミュニケーションを主題とした授業（「マスコミュニケーション基礎論」、「マスコミュニケーションの諸問題」）がありますし、これらや関連分野を専攻とする教員が複数います。しかし、社会学部として特別な対策を行うことはしていません。将来マスコミ関連の仕事をしたいという学生たちは、一方でそれぞれに就職関係の情報収集やスキル・アップを心掛けながら、他方で教育、政治、社会思想、異文化理解、社会福祉、雇用政策、平和と紛争、国際関係、等々の様々な研究分野で各々の関心・問題意識に応じて学習・研究を進め、人や社会や世界について考察し、議論を重ねています。社会学部でのそうした積み重ねが、将来マスコミ関係で仕事をしていく重要な素地を育てていくものと、社会学部は考えます。また、それはマスコミに限らず多くの職業についてあてはまることだろうと考えます。

Q 6：教員になることを考えています。社会学部では教員免許を取得できますか？

A 6：一橋大学では学部ごとに教職課程の認定を受けており、卒業要件に加え、教職専門科目を含む所定の単位を履修することで、教員免許を取得できます。

社会学部では中学社会、高校地歴、高校公民、中学・高校英語の免許を取得することができますし、教員として働いている卒業生もいます。



授業について

Q1：一橋大学では、どのような授業が行われるのか教えてください。

A1：1・2年次では、語学、自然数理科目等を中心とした全学共通教育科目及び学部教育科目のうち基礎的な科目を履修し、3・4年次では、学部教育科目を中心とした専門科目を履修することになります。また、3・4年次には、ゼミナールに必ず所属することになります。

Q2：講義は主にどのような形式で行われているのですか。

A2：一般的な科目は高校と同じです。また、ゼミナール等は指導教員により違うようです。

Q3：3、4年次で履修するゼミナール（以下ゼミ）は、どのように決めているのでしょうか。選択の際に各ゼミを知る資料は、配付されるのでしょうか。

A3：2年次から3年次に進学するときに志望するゼミに応募し、選考で決定されます。

ゼミの内容については事前にウェブシラバスでゼミ情報が公開される他、教務課窓口等でも各ゼミ内容等を記載した冊子を配付しています。また、学生で組織される後期ゼミ協議会において自主的にゼミナール説明会を行い、学生が自主作成したゼミ紹介冊子を配付します。さらに、ゼミ選択の参考のためにオープンゼミ（普段の活動の様子や雰囲気等を体験してもらうためにゼミを開放したりすること。）を開催しているゼミもあります。

Q4：一橋大学ならではの特徴的な講義やゼミはありますか。

A4：各学部には様々な教員がいますので、特徴のある講義やゼミも多々あります。ここでは個別に指摘するのを控えますが、ゼミ教育重視の姿勢自体が本学の大きな特徴だといえると思います。

ゼミは平均10人前後の少人数からなるため、学生同士、そして学生と教員が緊密な関係を築くことになります。また、学部間の垣根も低く、所属学部を超えていろいろな授業が履修できるのも本学の特徴です。

Q5：専門課程での授業人数は何人くらいですか。

A5：ゼミナール（演習）は多くても20人程度の少人数ですが、講義は定員枠のない選択科目がほとんどなので、場合によっては数百人の多人数講義もあります。

Q6：週の平均受講数はどれくらいですか。

A6：履修科目登録上限制度により、1年間に履修登録できる科目単位数の上限は50単位と定められています。週1コマの講義の単位数を半年2単位と換算すれば、1年次の週の平均受講数は概ね13コマ程度だと思います。

Q7：専門的な研究は必ず取り組まなければなりませんか。

A7：後期ゼミと卒業論文は必修です。

Q8：高校と大学の授業は具体的にどのような違いがありますか。

A8：高校では基礎的な科目の勉強が中心だったと思いますが、大学ではずっと広い範囲の専門領域が科目としてカバーされています。カウントの仕方によって差はありますが、商学部だけで約100科目の専門科目の授業があります。しかも個々の科目では、高校で勉強する内容よりもはるかに深いものになっています。

また、高校では指定された教科書に従って授業が進められることが基本ですが、大学では何を強調してどう教えるかは、教員の判断によって決まります。教科書を用いない場合も少なくなく、授業の内容は、科目名だけでなくどの先生が教えるかということによっても大きく変わります。

授業の方法も、純粋に知識を伝える講義形式、学生との対話・議論中心の授業、実験や実習形式等の様々な形式があります。授業を受ける学生にとっては、大学での授業科目の多くが選択制になっているので、まず、どのような目的で何を学びたいかということをしっかり持つことが重要になってきます。

Q9：一橋大学は語学教育にどの程度力を入れていますが。

A9：全学共通教育科目において、約10言語を初級から上級まで開講していますので、1年次から4年次まで体系的に学ぶことが可能です。必修語学を1年次、選択必修語学を主として1・2年次に履修しますが、中・上級外国語はさらに4年次まで選択して履修できます。

また、各学部では、専門分野の英書講読や英語表現等を学ぶことを目的とした科目がありますので、語学教育には、かなり力を入れています。また、外国人教師による授業やLL教室・CALLシステムといった設備等も充実しています。

Q10：第二外国語は何を選択できますか。

A10：いわゆる第二外国語としては、ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、スペイン語、朝鮮語があります。

また、その他の外国語として、アラビア語、ギリシア語、ラテン語があります。

Q11：語学教育・通訳に関する講義はありますか。

A11：外国語の科目は、約10言語、初級から上級まで各種ありますが、通訳養成を目的とした特別な科目はありません。

Q12：卒業要件に加わった「GPA制度」について教えてください。

A12：平成22年4月以降の学部1年次入学者から、平成26年3月以降の卒業判定において、卒業要件のひとつとして一定の値以上のGPA(Grade Point Average)を要求することになりました。GPAとは、個々の学生の学習到達度ををはかる指標となる数値で、5段階成績評価による科目の成績を点数化(A=4, B=3, C=2, D=1, F[不合格]=0)したうえで、



履修した科目1単位あたりの成績平均点を求めたものです（*）。

(*)GPAの計算式：
$$\text{GPA} = \frac{(4 \times \text{A取得単位数} + 3 \times \text{B取得単位数} + 2 \times \text{C取得単位数} + 1 \times \text{D取得単位数} + 0 \times \text{F取得単位数})}{\text{総履修登録単位数}}$$

Q13：他学部の講義を履修することはできますか。また、履修できる場合の上限は何単位ですか。

A13：本学では、全学共通及び所属学部の必須科目を満たしていれば、履修条件が指定された一部の科目を除いて、他学部の科目を履修することが可能です。また、他学部の科目の履修上限はありませんが、卒業要件に含めることができる単位数は決まっていますので注意が必要です。

Q14：各学部で取得できる資格にはどのようなものがありますか。

A14：各学部に教育職員免許状取得のための課程があります。また、所属学部を問わず、社会学部の一部科目を修得することにより、「社会調査士」の資格申請をすることが可能です。

Q15：取得できる教員免許について教えてください。

A15：一橋大学で取得できる教員免許は、以下のとおりです。

商学部：高校教諭一種免許（商業）

経済学部：中学校教諭一種免許（社会）、高校教諭一種免許（地理歴史、公民）、中学・高校教諭一種免許（数学）

法学部：中学校教諭一種免許（社会）、高校教諭一種免許（地理歴史、公民）

社会学部：中学校教諭一種免許（社会）、高校教諭一種免許（地理歴史、公民）、中学・高校教諭一種免許（英語）

なお、本学は教育学部でなく、あくまでも開放制の教職課程なので、自分自身の責任において、卒業要件とは別の教職課程のカリキュラムで必要とされる単位をオプションで修得しなければなりません。

Q16：英語の教員免許は、社会学部以外では取得できませんか。

A16：本学では、社会学部社会学科のみが中学校・高校教諭1種免許（英語）取得のための教育課程として文部科学省に課程認定されています。

しかし、教育職員免許法上、他学科での聴講が可能なので、他学部の学生であっても、教職課程のカリキュラムをよく理解した上で、付加的に修学するつもりであれば取得は可能です。

Q17：四大学連合（複合領域コース）について詳細に教えてください。

A17：本学と東京外国語大学、東京工業大学、東京医科歯科大学が平成13年3月に連合協定を結び、個々の大学のみでは不可能であった学際的教育コースや、編入学、複数学士号の取得などへの道を開いていこうという試みで、2年生以上を対象に開設しています。

今までも、卒業後に理工系の大学などに再度入学して異分野の道に進む人が少なからずいましたが、本学のみでは養成できなかった理工学や医学の知識を有した卒業生の育成を目指しています。詳細は、本学のウェブサイト（<http://www.hit-u.ac.jp/partnership/g4/index.html>）の「四大学連合」をご覧ください。

なお、現在、東京外国語大学とのコースはありません。

また、概略は、本日の配付資料「大学案内」に掲載しています。

Q18：他大学との単位交換制度について教えてください。

A18：多摩地区国立五大学（東京外国語大学・東京学芸大学・東京農工大学・電気通信大学・一橋大学）及び津田塾大学と実施しています。

また、四大学連合の複合領域コースやEUコース（東京外国語大学・国際基督教大学・津田塾大学及び一橋大学）で取得した授業科目についても、単位互換の単位として認定しています。

これらの協定を結んでいる他大学の授業が、受講料を払うことなく受けられ、年間で60～70人程度がこの制度を利用しています。また、60単位まで単位互換が認定されます。

Q19：授業評価について教えてください。

A19：受講する学生の意見に耳を傾け、授業をより改善することを意図した制度です。導入以来、本学の教育の改善に一定の効果をあげてきたものと考えられます。今後も段階的に授業評価制度の改善を行い、本制度をさらに効果のあるものとすると同時に、最終的に本学の個性や風土にふさわしく、真の教育改善にとって有為なものとなるよう、改善を進めています。

Q20：国際公務員を目指しています。国際関係や国際化に対応した教育は受けられますか。

A20：法学部には国際関係コースがあり、国際法や国際機構論の授業があります。また他学部でも国際関係の授業科目を開設していますし、この法学部の国際関係コースの授業科目も履修できるようになっています。

ただし、国連への採用や資格試験等に対応した特別の講義は開設されていません。

Q21：理系の講義も受けられますか。

A21：全学共通教育科目の中には、サイエンスミニマム、物理学、化学、生物学、地学等の理系の科目があります。実験を主とした教養ゼミ（理科）もあります。

Q22：入学後の学生の満足度を教えてください。

A22：平成21年度学生生活実態調査の結果によると、大学生活への満足度は、「満足している」と「まあ満足している」を合わせて85.7%となっています。



学生生活について

Q 1 : サークルやクラブ活動、また行事などについて教えてください。

A 1 : 本学ウェブサイトからサークル紹介へアクセスしてください(本学 HP→一橋大学で学びたい方へ→学生生活→サークル等)。また、学部学生のサークル加入率は、6割を超えています。

Q 2 : 学園祭(一橋祭や KODAIRA 祭)は、どのように実施されるのでしょうか。

A 2 : 学生が組織する一橋祭運営委員会や KODAIRA 祭実行委員会が企画・立案し、開催しています。
なお、詳細については、本学ホームページから運営委員会等にアクセスしてください。

Q 3 : 寮生活について教えてください。

A 3 : 概要は次のとおりです。

- ①場 所: 小平国際学生宿舎は国立から自転車で約 30 分、電車(乗換え 1 回)と徒歩で約 35 分の小平国際キャンパスにあります。小平国際キャンパスには、6 棟の国際学生宿舎と課外活動施設等などがあり、総室数 785 室で、学部学生のほか、大学院生、留学生などが入居しています。
中和寮は国立キャンパスより徒歩約 8 分のところにあります。総室数は 147 室で学部学生、大学院生が入居しています。
- ②部 屋 数: 小平国際学生宿舎には、日本人 386 室、留学生 190 室、他大学留学生 209 室、計 785 室の部屋があります。部屋は、個室(男子 10㎡、女子 12㎡)になっており、机、本棚、ベッド、冷蔵庫等が設置されています。
中和寮には、日本人 147 室の部屋があります。部屋は個室(13㎡)になっており、机、本棚、ベッド、冷蔵庫等が設置されています。
- ③寄宿料等: 毎月、寄宿料 5,900 円、ほかに共益費、個人の部屋に対する電気・水道料金、補食室・シャワー室の電気、水道、ガス料金を負担することになります。合計約 11,000 円~ 20,000 円の負担になります。また、入居費として入居時に 30,000 円を預かり、ハウスクリーニング費等として退去時に精算します。
- ④選考方法: 入学試験募集要項に綴じられている申請書類及びその他の必要書類を期日までに提出してください。学生の家族の経済状況等を勘案のうえ、学内規則に即して選考を行います。
- ⑤そ の 他: 入居者は、本学で定める「一橋大学国際学生宿舎規則」を遵守してもらいます。

Q 4 : 学生寮は 2 年次生からでも入寮できますか。

A 4 : 緊急な事情がある場合、選考により入寮が許可されます。また、3 年次に新規募集があります。

Q 5 : 自宅から通学できない人は、寮などに入っているのでしょうか。

A 5 : 自宅からの通学が困難な場合、大学の近くに住まいを借りることになりますが、国際学生宿舎に入居するほか、アパートや民間の学生会館等を利用することも多くなっています。なお、大学の消費生活協同組合(生協)では、アパート等の紹介を行っていますので、お問い合わせください。

Q 6 : 悩み事や健康の不安などを相談するところがありますか。

A 6 : 学生相談室では学生生活全般におけるあらゆる相談(修学・履修、進路・就職、生活・経済、セクシュアルハラスメント、課外活動、健康、メンタルヘルス、対人関係、留学等)をお受けしています。専任の教員や臨床心理士の資格を持つカウンセラーが、皆さんのあらゆる相談に応じています。保健センターでは、心身の健康面に関することを中心に、医師・保健師・栄養士・臨床心理士が相談に応じています。必要な場合は他の医療機関への紹介もしています。ハラスメント相談室では、各種ハラスメントにおける相談をお受けしています。

就職、進学、資格について

Q 1 : 卒業生の就職先について、各学部の特徴を教えてください。

A 1 : 商学部と経済学部は、主に銀行・金融関係、製造業、商社に就職しているのが主な特徴です。

法学部も銀行や商社が主な就職先ですが、法曹になるために法科大学院へ、国際公務員になるために国際・公共政策大学院へ進学する学生が多い事が特徴です。また NGO(NPO) や官公庁に就職する学生も多いです。

社会学部は金融関係に限らず、様々な業種に就職しています。情報・通信関係やマスコミ関係、広告代理店に就職している学生が他学部に比べて多いのも、特徴のひとつです。

本日配付している『一橋大学案内 2012』p.42 に、平成 22 年度卒業生の進路先について掲載していますので、そちらもご覧ください。

Q 2 : 就職のサポート体制、また、就職状況や国家試験(税理士、公認会計士、国家公務員第 I 種)の合格状況を教えてください。

A 2 : 就職に関してはキャリア支援室が置かれており、主に本学卒業生のキャリア・アドバイザーが就職相談に応じています。また、就職状況は次のとおりです。

- 就職率(平成 22 年度就職率は約 95.44%、平成 21 年度就職率は約 95.47%)
- 国家公務員第 I 種試験(平成 22 年度合格者 69 人、内採用者 16 人。平成 21 年度合格者 42 人、うち採用者 14 人)
- 司法試験(平成 22 年度合格者 69 人、平成 21 年度合格者 41 人)
- 公認会計士(平成 22 年度合格者 38 人、平成 21 年度合格者 54 人)



Q3：国家公務員第I種試験を受験する学生の希望省庁はどこが多いのでしょうか。

A3：ここ数年で採用の多い省庁は、総務省、厚生労働省、外務省、国土交通省、財務省、農林水産省、経済産業省の順番となっています。

Q4：将来、公認会計士になる事を目指しているのですが、どの学部が良いのか悩んでいます。

A4：公認会計士を目指すのであれば、会計講座を開講している商学部が、分野としては近いといえます。ただし、公認会計士の受験科目の中には経済学が選択科目として含まれていますし、経済学を知っていると取り組みやすい科目もいくつか入っています。経済学への関心が強いのであれば経済学部に進学するのもよいでしょう。また企業会計に関する知識以外にも幅広い知識をもった会計士となることを目指すのであれば、法学部や社会学部に入学して、商学部の科目を履修し、公認会計士を目指すことも可能です。

Q5：公認会計士等の資格取得のためには、大学の講義やゼミだけでなく、ダブルスクールしなければ厳しいでしょうか。

A5：学生の間にもいろいろな意見があるようです。ダブルスクールをして合格する人もそうでない人も、また逆にダブルスクールを利用せず合格する人もいます。個人の勉強の仕方の問題のように思われます。

Q6：一橋大学の学部から一橋大学の大学院には毎年どのくらいの人が進学しているのでしょうか。また、他の大学院への進学状況はどのようになっていますか。

A6：一橋大学の大学院に進学するのは、平成22年度は97人でした。また、他大学の大学院への進学状況は、次のとおりです。東京大学（11）、慶應義塾大学（7）、早稲田大学（4）、など36人

受験について

Q1：どのような学生に入学して欲しいと思いますか。

A1：本学のアドミッション・ポリシー（入学者受入方針）は、本日配付した「一橋大学案内2012」及び「平成24年度入学者選抜要項」に記載されています。なお、学業の面では、入学試験における各教科・科目の配点などを比較してもらうと、どのような学生を求めているかが分かるかもしれません。

Q2：推薦入試について教えてください。

A2：平成21年度から、商学部において推薦入試を実施しており、定員は、一般高校推薦の入試が10人で専門高校推薦の入試が5人となっています。試験科目や科目ごとの配点などの詳細については、本日配付した「平成24年度入学者選抜要項」をご覧ください。

Q3：一橋大学を受験するにあたって今後の勉強方法などについて、具体的に教えてください。

A3：受験対策などの質問については大学としてはお答えできないのですが、大学入試センター試験や第2次試験の教科・科目ごとの対策については、本学の在学生在が作成し、本日の配付資料になっている「夏本」などを見てもらうと参考になるかもしれません。

また、その他の質問については、本日、東キャンパス1号館1101番教室において、在在学生による受験相談コーナーを設けておりますので、ぜひ聞いてみてください。なお、11月初旬頃の一橋祭（一橋大学の学園祭で、今年度は11/4（金）～11/6（日）に開催）や6月初旬のKODAIRA祭（今年度は実施済）でも、本学の在在学生による各種受験相談を企画していますので、ぜひご利用ください。



留学について

Q1：大学を休学して留学する場合の出発までの過程について詳しく教えてください。

A1：留学にはいろいろなケースがあります。国際教育センター留学生・海外留学相談部門では、海外留学全般の相談に応じしており、専門の教員がいつでも相談に乗りますので、入学後相談してください。なお、『一橋大学生のための「派遣・留学・海外研修」ハンドブック』が留学のウェブサイト (http://www.hit-u.ac.jp/ryugaku/faq_oversea_edu.html) からダウンロードできますので、参照してください。

Q2：海外留学のことについて詳しく教えてください。

A2：1年間の交換留学を主とする「海外派遣留学制度」は学部3年生と4年生、大学院生が対象ですが、派遣される前年度の夏学期に、派遣留学生を選抜しています。興味がある方は、1年生のうちから情報収集し、語学の準備をしたり、長期休暇を活用して海外経験を積んだりすることをお勧めします。

また、以下に掲載する長期休暇中に行う短期の海外研修プログラムは、1年生から参加できます。

☆短期の海外研修プログラムは、授業として実施します。 平成23年度の予定です。24年度以降は変更する可能性があります。	
1 英語Ⅱ/Ⅲ 海外語学研修 @ Stanford (夏学期 2単位)	・研修先(国・都市) スタンフォード大学(アメリカ・スタンフォード) ・研修時期 夏休み ・期間 約4週間
2 英語Ⅱ/Ⅲ 海外語学研修 @ UC Davis (夏学期 2単位)	・研修先(国・都市) カリフォルニア大学デーヴィス校(アメリカ・デーヴィス) ・研修時期 夏休み ・期間 約4週間
3 ドイツ語中級 海外語学研修 @ Weimar (夏学期 2単位)	・研修先(国・都市) バウハウス大学(ドイツ・ワイマール) ・研修時期 夏休み ・期間 約4週間
4 短期海外研修(オーストラリア) (冬学期 2単位)	・研修先(国・都市) モナシュ大学(オーストラリア・メルボルン) ・研修時期 春休み ・期間 約4週間
5 短期海外研修(中国) (冬学期 2単位)	・研修先(国・都市) 北京大学(中国・北京) ・研修時期 春休み ・期間 約4週間
6 短期海外研修(スペイン企業派遣) (冬学期 2単位)	・研修先(国・都市) Berge社(スペイン・マドリッド) ・研修時期 春休み ・期間 約5週間
7 短期海外研修(韓国) (冬学期 2単位)	・研修先(国・都市) 西江大学(韓国・ソウル) ・研修時期 春休み ・期間 約4週間
☆授業化はされていません(単位はできません)が、夏休みに短期海外研修(国際協力実習)も実施しています。	

Q3：一橋大学海外派遣留学制度では、どのようなことを支援してもらえるのでしょうか。

A3：平成22年度は、36人に奨学金が支給され、支援内容は、1年間の海外留学期間中の奨学金(往復国際航空運賃、授業料及び地域別に定めた生活費)でした。奨学金の支給人数、奨学金額については、今後変更する可能性があります。学生交流協定校への派遣留学の場合は、奨学金の有無に関わらず、留学先の授業料は不徴収となります(ただし、留学期間中、一橋大学の授業料は支払う必要があります)。

一橋大学海外留学制度のほか、短期海外研修、海外語学研修(いずれも2単位の授業として実施されます)に参加する場合にも、奨学金が支給されています。

Q4：海外の協定校には、どのようなところがありますか。

A4：北米地区6校、オセアニア地区5校、アジア地区13校、欧州地区20校の計44校と学生交流協定を締結しています。(詳しくは留学のウェブサイト (<http://www.hit-u.ac.jp/ryugaku/index.html>) を参照してください。)

Q5：毎年何人くらい留学しているのでしょうか。

A5：一口に留学といっても、短期のものから長期のものまで、また大学等から奨学金をもらって行くものもあれば、自費で行くものもあるなど、いろいろな形態があるので、これらをすべて含めればかなり多くの学生が留学をしているといえるでしょう。

平成22年度は、短期海外研修により30人、海外語学研修により54人、海外派遣留学制度により36人の学部生が海外に派遣されました。

Q6：年間40人くらいが奨学金をもらって留学することができるようですが、その他の人が留学するにはどのようなすればよいのでしょうか。

A6：一橋大学海外派遣留学制度のもとで、授業料免除(ただし一橋大学に授業料を納める必要があります)による協定校に留学することが可能な枠は、90人分程度です。そのうち奨学金が支給される人数は、例年40人程度でしたが、今後は変更する可能性があります。詳しくは留学のウェブサイト (<http://www.hit-u.ac.jp/ryugaku/index.html>) で募集要項等がダウンロードできますので、確認してください。



Q7：留学先の大学や学部、また、単位互換制度等について、ウェブサイト上にない情報などがありましたら教えてください。

A7：一橋大学海外派遣留学制度による派遣留学生が、留学先での様子などを書いた報告書が、本学の同窓会である如水会のウェブサイトに掲載されています。

如水会のウェブサイト：<http://www.josuikai.net/> トップページから「大学・学生支援」→「留学生レポート」に進んでください。

Q8：在学中に留学する場合、その間の授業料や出席日数についてはどのようになるのでしょうか。

A8：留学願による留学期間中は、学籍管理上、留学身分となります。一橋大学海外派遣留学制度により学生交流協定校へ派遣される場合などがこれに当てはまります。なお、留学身分では、留学期間中も授業料の支払義務があります。

授業の出席日数については、学期途中であれば受講日数不足になりますが、学期途中の例外的履修登録が認められる場合があります。また、単位互換制度により、留学先の大学で取得した単位が一橋大学の単位として認められる場合もあります。

Q9：留学しても4年間で大学を卒業することは可能でしょうか。

A9：ケース・バイ・ケースです。留学に当たっては、事前に指導教員や担当窓口とよく相談して、綿密な履修計画を立てていくことが大変重要です。

Q10：国際交流の面では何に力を注いでいますか。

A10：本学の学生に海外の大学で教育を受ける機会を供与し、日本や世界に貢献できる人材の育成に力を注ぐとともに、教育の更なる国際化を図り、本学の学生がより幅広い経験や視野、国際理解及び国際的人脈を得ることにより、自由で平和な政治経済社会の構築に資する知的、文化的資産を創造し、その指導的担い手となるよう育成することに力を入れています。

具体的には、1か月程度の研修から、1年程度の留学、大学院では学位取得を目指す長期の留学等、多様な留学の機会を提供しています。

また、本学には600人以上の外国人留学生が在籍しており、日ごろの学生生活で様々な国の人と接することができます。

Q11：外国人留学生と交流するような機会はありますか。

A11：学内には600人以上の外国人留学生がいますので、積極的に交流することを意識すれば、機会はたくさんありますし、国際交流を目的としたサークルも複数存在します。また、講義がすべて英語で行われる授業(Hitotsubashi University Global Education Program(HGP))には、特に交換留学生が多く履修していますので、これらの科目を履修することもよい機会になるかも知れません。

図書の利用について

Q1：一橋大学の図書館にはどのような本があるのですか。

A1：本学の図書館は、社会科学系の資料を中心に約182万冊の図書、16,000タイトルの雑誌を所蔵しています。その内の約100万冊は、自由に手に取って選ぶことができるフロアにあります。

また、一橋大学では、専門資料が学部ごとに分散することなく図書館に集中して所蔵されていることも特徴の一つで、教員が使うような図書を利用して高度な研究をすることができます。

その他、貴重書のコレクションや歴代の教員の個人文庫などを集めて特色ある蔵書を構成しており、また、電子ジャーナルなどの新しい形態の資料の収集にも努めています。

Q2：学部の学生は、どのようなサービスを受けることができますか。

A2：夏季や冬季の授業休業期間を除く授業期は、平日は22時まで、土・日・祝日も17時までの年間300日以上開館しています。図書は8冊まで、期間は2週間借りることができます。希望する図書や雑誌がどこに所蔵されているかは、図書館のホームページからオンライン目録で調べることができます。

カウンターでは、図書を始めとする様々な資料に関する質問に答えたり、一橋大学にない図書を国内外の大学図書館等から借りたり、必要部分をコピーで取り寄せたりするサービスも行っています。なお、図書館で購入してもらいたい図書のリクエストや、他の大学図書館等からの図書やコピーの取り寄せの申込みは、インターネットを使って行うこともできます。

また、インターネット閲覧用の端末や、皆さんのパソコンをインターネットに繋ぐことのできる無線LANの環境を用意しています。その他、各種の情報をいかに入手・活用するか分かりやすく講習するガイダンスも開催しています。

《体調が悪くなった》場合は

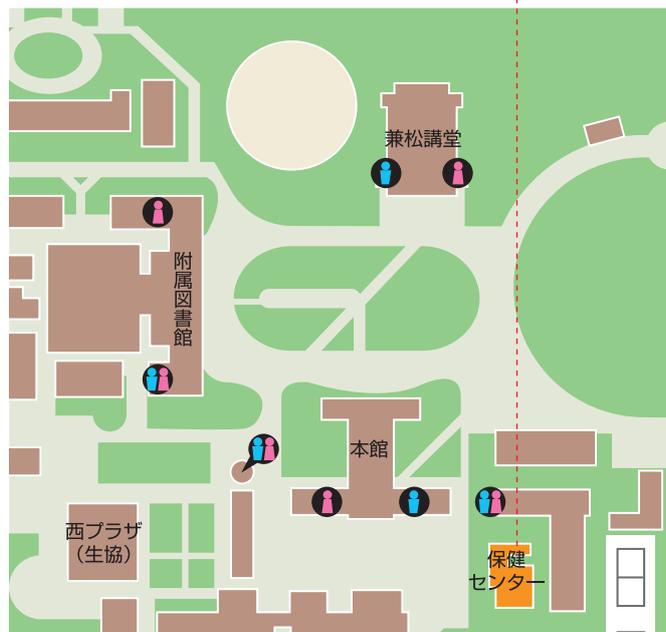
気軽に **一橋大学** の腕章を着けた係の者にお申し出ください。

また、**保健センター**では、応急的な看護をいたしますので、

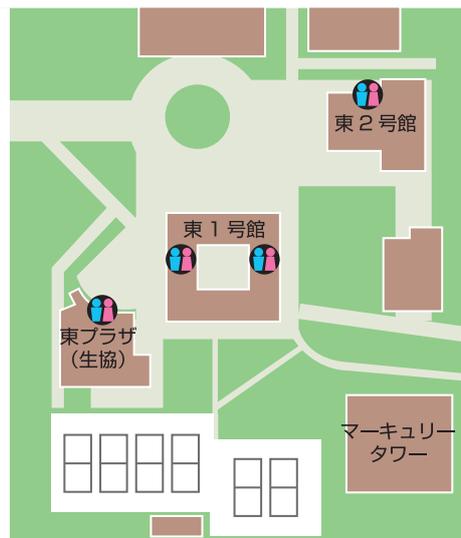
何かあった際には、ご遠慮なくお越しください。

保健センター

●西キャンパス



●東キャンパス



一橋大学 学務部 学生受入課

〒186-8601 東京都国立市中2-1 電話：042-580-8150 FAX:042-580-8158

ホームページ： <http://www.hit-u.ac.jp/admission/>